

絶滅危惧種() ミシマサイコ



※

II

2019



42

とともに市内に普及する活動を展開しています。

夏の暑い盛りに可憐な黄色い花を咲かせ、晩秋に小さなタネをつけるセリ科の多年草植物「ミシマサイコ」。漢方生薬「柴胡」の原料として古くから「根」が重用されてきました。名前の由来は、生薬の産地として名高かった三島地方(静岡県)から。

相模野台地に位置する相模原市にも、かつて「柴胡が原」と呼ばれた有数の群生地がありました。現在も歌い継がれる相模原市民の歌の冒頭「柴胡の原の昔より希望輝く相模原・・・」や、南区の「柴胡が原陸橋」などの名称に、市との深いゆかりを伺い知ることができます。

昭和40年代頃から自生地の開発や宅地化が進むなどして、野生種としての減少が進み、すでに現在の相模原市からは姿を消し、神奈川県レッドデータブック(2006年度版)では「ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種」とされる絶滅危惧IA類に、また、日本全体でも、環境省レッドリストで絶滅危惧II類に分類されています。

「相模原柴胡の会」の皆さんが栽培している見本園で見ることができます。

～ 開花期は8月頃です～

- 相模原麻溝公園 ■
- 柴胡が原陸橋・命名碑前 ■
- モナの丘 ■

「ミシマサイコ」を鑑賞できます!

発行：公益財団法人相模原市まち・みどり公社

みどり推進課 TEL 042-751-6624 (直通) FAX 042-751-2345

<http://www.sagamiharashi-machimidori.or.jp/>
相模原市中央区富士見6丁目6番23号(けやき会館内)

